

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 2 1 年度 第 3 回 豊中市立図書館評価検討委員会		
開 催 日 時	平成 2 1 年 (2 0 0 9 年) 5 月 2 8 日 (木) 1 8 時 ~ 2 0 時		
開 催 場 所	豊中市立岡町図書館 集会室	公 開 の 可 否	☒ 可 不可・一部不可
事 務 局	生涯学習推進室 岡町図書館	傍 聴 者 数	1 人
公開しなかつた理由			
出席者	委 員	村上泰子 上口佐知子 本荘泰司 中井靖子	
	事 務 局	岡町図書館長 千里図書館長 野畑図書館長 庄内図書館長 蛭池図書館長 岡町図書館副主幹	
	そ の 他		
議 題	1 豊中市立図書館評価の実施について 2 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成21年度（2009年度）第3回 図書館評価検討委員会

日 時：平成21年（2009年）5月28日（木） 18時～20時

場 所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委 員 村上（委員長） 上口 本莊 中井

事務局 古川 藤沢 林 大原 北風 松井

1 豊中市立図書館評価の実施について

「資料7 豊中市立図書館評価システムリーディング項目一覧（見直し）」及び

「資料8 豊中市立図書館評価システムリーディング項目一覧表（見直し）」

＊これらの資料に基づき事務局から説明を行なった。

●委員長

ただ今の説明について、何か質問はあるか。

前回は中項目ごとに見ていったが、今回は大分類ごとにご覧いただきご意見をいただきたい。それでは、大項目「経営・運営・管理状況に関する評価」について、ご意見をいただきたい。

●委員

中項目「図書館として適切な経営が行なわれているか」の小項目「人材育成による職員の能力・資質向上」の指標として達成度が加わっているが、この指標の目標値が70%となっている。目標値を70%とされた根拠はあるのか。

●委員長

この70%の目標値は、例えば昨年図書館利用者アンケート調査であったような「おおいに達成できた」「どちらかといえば達成できた」等を足した割合を考えているのか。

●事務局

研修受講者の達成度を100%とするのが理想ではあるが、理解度に個人差もあることから、概ね70%が研修受講者の達成度及び研修内容を評価するためのボーダーラインと考え、今回は目標値を設定した。

●委員

中項目「蔵書状況」に指標として「祝日開館」「開館時間」を加えられたが小項目を新たに起こした方が良いと思う。「蔵書状況」に「祝日開館」「開館時間」が入っているのは違和感がある。

それと感想ではあるが、資料7に「市区立の比較」の欄が加わったが、ざっと見て評価する上で見やすく・便利になったと思う。

●委員長

「市区立の比較」の欄に数値が入っているところは少ないが、見やすくなったと思う。

「祝日開館」「開館時間」は、別に小項目を設けたほうが良い。

また、全体的に言えることではあるが、例えば中項目「図書館として適切な経営が行なわれているか」の小項目「人材育成による職員の能力・資質向上」の指標の経年変化に対する評価内容のコメントとして、「回数・参加者ともほぼ横ばいである。」とあるが実際の数値を見てみると、内部研修の参加人数は減少の傾向にある。他のコメントも含めて、再度、見直したほうが良い。それと、中項目「市民にとって質の高いサービスが提供されているか」の小項目「蔵書状況」の評価内容に「(参考…「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に掲げる数値目標は８５０，８１２冊である。)」と記載されている。(30 万以上の人口を対象にしている。) もっと図書館活動を前向きに捉えている数値目標が他にもあるので、同様に併記しておくほうがよい。

また、「蔵書冊数」の指標であるが、これはすべての資料を含んだ数値なのか。図書とそれ以外（ビデオ、雑誌等）と分けて記載し、評価する必要はないか。その方が他市との比較が容易ではないか。

●事務局

これは、すべての資料を含んだ数値である。ちなみに資料の内訳は、図書が 1,000,870 冊でビデオその他が残りの冊数である。

●委員長

小項目「蔵書状況」の評価内容欄の「(参考…「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に掲げる数値目標は８５０，８１２冊である。)」は、図書のみの数値なのか。

●事務局

確認してみる。

●委員長

図書とその他のものを含めて表すほうがよいのか、現行のままのほうがよいのか。

分けたほうが良いと思われるかどうか。

●事務局

他市との比較を行なう上で、図書とその他のものを分けて記載していたほうが比較しやすいと思う。

●委員長

「祝日開館」「開館時間」が現在、上げられているが、それ以外の指標として「開館日数」等の別の指標は必要ないか。

●事務局

全市の図書館として捉えており、定休日も図書館によって月曜日又は金曜日と分けている。各館が一律にサービスを行なっていくのは困難である。

●委員長

各館の欄を見れば開館時間等が把握できるようになっているが、他の指標を加えることができないか、再度、検討していただきたい。

●委員

小項目「蔵書状況」に関する「市区立の比較」で、「市民一人当たり蔵書冊数」は高いが「蔵書新鮮度」は低い。また、目標値も平成 19 年度と比べ、平成 20 年度以降は低く設定されている。これは、図書館の予算的な背景があるためなのか。

●事務局

安価な本をたくさん購入すると数値は上がると思うが、できるだけ予算を有効活用するために今まで購入できなかった等の図書の購入を優先しているからである。

●委員長

それでは、大項目「図書館の設置目的・使命の達成」について、ご意見をいただきたい。

まずは、中項目「市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できているか」から中項目「IT を活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか」について、ご意見をいただきたい。前回からの変更点は、満足度に関する指標が加わったことである。

●委員

質問であるが他の自治体との連携は、実務担当者レベルの間に課題設定をされているのか。

●事務局

現在は、箕面市との関係が最も深い。資料の相互利用の必要性を感じ、箕面市、吹田市及び豊中市は 3 市間の連絡便を実施し、資料の相互利用を促進している。

●委員長

中項目「子ども読書活動を推進しているか」から中項目「高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか」について、ご意見をいただきたい。

このあたりは、前回からの変動がない部分である。

●委員

市民との参画という中で、図書館の運営等にボランティアとして、どれくらいの人に関わっているのか。子どもや高齢者へのサービスについても、ボランティアぬきには成り立たないと思う。中項目「市民参画による運営が図れているか」の中に、ボランティアの参加者の人数を加えるほうが良いと思う。

また、ボランティアとの関りがあることをはっきり示しておかないと、他市等との数値比較だけで図書館の事業を判断されてしまう恐れがある。

●事務局

委員が言われるとおりだと思う。ただ、図書館で現在、把握している団体が 410 団体あるが、ボランティア個人として活動されている方もいるので、すべてのボランティアの人数を把握しきれではない。現在のままでは指標化するのは困難であると考えている。

●委員長

個人、団体に関係なく人数だけでも把握できないか。

●事務局

個人のボランティアについては、関わり方も人それぞれなので、すべて把握するのは困難である。

●委員長

このリーディング項目の指標は、今後、事業を実施していく中で、見直しを行なっていくべきものであると思う。ボランティア人数を指標とすることは、今後の検討課題とさせていただきます。

●委員

中項目「子ども読書活動を推進しているか」の小項目「えほんはじめまして（豊中版ブックスタート）」の中には「ボランティア参加人数」の指標はあるが、ここだけ人数を把握できているということか。

●事務局

えほんはじめまして（豊中版ブックスタート）はボランティア参加人数が把握しやすいので掲載している。ここだけにボランティア人数を載せるのが不自然と言われれば、そうかもしれない。

●委員長

できるところから行なっていくという考え方でよいと思う。ボランティア人数全体を指標とすることは、今後の検討課題である。

●委員

おはなし会等いくつか関連していると思われる事業がある。「おはなし会」の事業の一つに「えほんはじめまして」があるのか。また、中項目「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多彩な情報ニーズに応えているか」の各小項目と中項目「子ども読書活動を推進しているか」の小項目の事業回数等がカウントを重複している部分はあるのか。さらに、中項目「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多彩な情報ニーズに応えているか」の小項目の区分として、何らかの基準があるのか。

●事務局

「えほんはじめまして」は、乳幼児の 4 ヶ月検診の会場に出向いて、保護者に図書館の利用の紹介等を行い、図書館の利用促進につなげていく目的で実施している。基本的に、「おはなし会」「えほんはじめまして」別事業である。「おはなし会」は子どもたちに直接、行うサービスである。

中項目「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多彩な情報ニーズに応えているか」の各小項目の「事業実施回数」の指標には、中項目「子ども読書活動を推進しているか」の小項目の事業回数を重複している部分もある。これは、把握できる取組をすべて掲載しているからである。

●委員

中項目「子ども読書活動を推進しているか」の小項目「おはなし会」は館内で行っているものだけの実施回数なのか。

●事務局

公民館等に出向いて行なったものも含まれている。

●委員長

事業実施回数が中項目を越えてクロスでカウントされていることには、判断が難しい面がある。中項目「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多彩な情報ニーズに応えているか」の各小項目と中項目「子ども読書活動を推進しているか」の視点は異なるので、問題はないと思う。

●委員

“連携”という場合、事業のどこまで（単一の事業なのか、他に含まれているか）を連携として、考えているのか。

●事務局

“連携”の中には、図書館主体のものと、他の課等から依頼させているものが含まれている。

●委員

中項目「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多彩な情報ニーズに応えているか」の各小項目の区分が分かりにくい。施設なのか部局なのか、それとも連携の仕方で分けているのかがわからない。

●事務局

小項目「公民館・人権まちづくりセンター・教育センター・地域教育振興課との連携」は子どもから大人までを対象にした施設であり、小項目「学校・幼稚園・保育所・子育て支援センターとの連携」は子どもを対象にした施設であり、小項目「とよなか国際交流協会との連携」は外国人を対象にした施設であり、小項目「庁内各部署及び市政情報コーナーとの連携」はそれ以外のすべてと考えている。

●委員長

評価内容の欄にも子どもに係る記載が多く出てきているので、小項目の区分の違いがわかりにくくなっているかもしれない。これは、子ども向けのサービスが多いからなのか。

●事務局

確かに子ども向けのサービスは多いが、それだけではないのでこのようにまとめている。

●委員長

年々これらの小項目に関する数値は公表されていくと思うが、それらを市民がどのように評価できるのだろうか。ただ、一つ小項目にまとめてしまうのはなじまないと思う。

●委員

小項目「学校・幼稚園・保育所・子育て支援センターとの連携」は義務教育課等との連携、小項目「とよなか国際交流協会との連携」はとよなか国際交流協会との連携、小項目「庁内各部署及び市政情報コーナーとの連携」は市役所と連携を対象にしている。ただし、小項目「公民館・人権まちづくりセンター・教育センター・地域教育振興課との連携」は子どもから大人までを対象にした施設であり年齢の幅も様々である。人権まちづくりセンターとの連携は、対象で区分するならば子どもを対象にした事業であると思われるので、小項目「学校・幼稚園・保育所・子育て支援センターとの連携」に移動したほうがよいかもしれない。事業で区分するほうがわかりやすいかもしれない。

●委員長

中項目「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様な情報ニーズに応えているか。」は判断が難しいところである。ある程度、割り切る必要がある。小項目「公民館・人権まちづくりセンター・教育センター・地域教育振興課との連携」は、見直しの可能性も含めて一度、考えていただきたい。

●委員

わかりやすく、説明できるようにしていただきたい。

●委員長

残りの中項目について、ご意見をいただきたい。

●委員

中項目「地域の情報センターとして積極的に活動しているか」の小項目「人権に関わる講演会・パネル展等の開催」の数値は蛍池で占められているが、これで効果が測れていると判断しているのか。

●事務局

蛍池の数値が多いのは地域教育協議会の取組が活発な背景があり、地域特性によるところが大きい。

●委員長

そのあたりの事情は、評価内容に記載していただきたい。

中項目「図書館の情報発信・PRは十分になされているか」に戻るが、利用者アンケート調査の認知度を加えるのはどうか。利用者増を把握することができる指標はあるが、認知度を把握するための指標がない。

●事務局

ホームページについては、アクセス件数が多いが、一方でリピータも多い。その辺りを把握できる対策ができていない。

●委員

中項目「地域の情報センターとして積極的に活動しているか」の小項目「地域資料・情報収集・保存・提供」において、貸出件数を把握することはできないか。

●事務局

貸出も一部、把握できるかもしれないが、難しいと思う。

●委員長

館内での利用状況も把握することは難しい。これは図書館共通の課題かもしれない。

●委員

中項目「市民との協働を推進しているか」と中項目「市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか」について、“協働”と“支援”で考えられているが、小項目「各種団体・地域の活動団体・グループの共催・協力事業」は協働に加えてもよいのではないか。事業名に“支援”が含まれていても、事業の中身を見ると協働である場合もあるので、整

理していただきたいと思う。

●事務局

小項目「各種団体・地域の活動団体・グループの共催・協力事業」は、中項目「市民との協働を推進しているか」に移動する。

●委員

豊中子ども文庫連絡会の活動は、小項目「各種団体・地域の活動団体・グループの共催・協力事業」に含まれているか。

●事務局

中項目「市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか」のすべての件数が小項目「各種団体・地域の活動団体・グループの共催・協力事業」に含まれている。

●委員長

一旦、ここで資料 7 のリーディング項目（案）に関する検討を終わりにし、第 1 回及び第 2 回でお配りしている図書館利用者アンケート調査結果等の資料をご覧ください、ご意見をお願いしたい。資料 6「豊中市の教育に関するアンケート調査単純集計結果概要（図書館抜粋版）」は、日ごろ図書館を利用していない人たちの意見を把握し、対策を考える上で参考になる。

特に、資料 6 の 10 頁の「豊中市立の図書館を利用しない理由」を見てみると、「場所が分からない」「利用したい時間が合わない」と回答された方は、これらの理由が改善されると潜在的な利用者になっていく可能性がある。このようなアンケート結果を活用し、アンケート回答者（利用者）に還元していかなければならない。

●委員

資料 6 の 9 頁の「豊中市立の図書館の利用状況」を見ると、利用する人と利用しない人の割合がほぼ半数であるが、図書館はこの数字をどのように考えているのか。

「図書館の場所がわからない」への対処としては、広報の仕方の問題だと思う。

子どもの利用状況は高いのに比べ、大人への利用状況が低いのもやはり広報が足りないだからと思われる。

●事務局

図書館の利用状況の実質を考えると、このアンケート結果の数値は妥当であると思われる。ただ、市内に図書館が 9 館あることを考えると、これだけの環境を活かす努力が足りないと感じている。

●委員長

最近は車社会でもあるので、駐車場の有無が図書館の利用状況にも影響しているかもし

れない。

●事務局

一番大きな駐車場がある野畑図書館で 15 程度、東豊中図書館で 10 台程度である。駐車上に恵まれた環境ではないかが、市の考え方としては「歩いて、自転車で利用できる範囲で地域に根付いていける図書館であること」と考えている。

●委員

資料 6 の 3 頁の「居住地域」を見ているが、地域性と年齢をクロスさせていくと、何か見えてくるかもしれない。図書館としての見解があるなら教えて欲しい。

●事務局

地域性はあると思う。例えば、南部地域には豊中市全体 20%程度の方の居住区域であるが、少子高齢化が進んでいる地域でもある。庄内図書館の利用法としては、公民館及び老人福祉センターとの複合施設であることから、地域の居場所や他の施設に來られたついでに利用してもらったりしている。

図書館としては、地域性を大切に考えていきたい。

●委員

図書館は、本を貸し出す施設という機能以外の利用方法があると思われる。

それならば、来館者数を把握するための仕組みが今後、必要ではないか。

●委員長

来館者数を正確に計測することは難しいと思うが、これからの図書館のめざす姿を見ていく上での重要な指標ではある。

●事務局

来館者数を把握することは、難しい現状がある。

●委員

図書館利用者アンケートの自由記述に、自習室を整備してほしいとの意見があったと思う。本を借りるだけではなく、静かに勉強できるスペースとして考えられている利用者もいる中で、このことを図書館はどのように考えているのか。

●事務局

図書館は、1970 年以前は集会室を自習室として開放していた時期もあった。1970 年以降は、図書を媒体とする提供機能が大きくなっていく中で、図書館のあり方も変化してきている。例えば、千里図書館は、ある程度の広さを持つ施設であるが図書を閲覧できるスペースがないとの利用者の声を聞いている。

図書館としては、図書館の本来の機能を優先する方向で進めていくが、自習室の環境を提供して欲しいとのニーズについては、時期の設定や他の施設と調整する中で考えていきたい。

●委員長

図書館の機能は、広く利用者に図書資料を提供し、活用してもらうことが第一の目的である。ただ、このことが利用者に伝わっていないことが原因でもあるので、広報活動の努力を行っていく必要がある。

また、図書館利用者アンケートの自由記述には、「自習室を整備してほしい」「図書の閲覧ができるスペースが欲しい」と対照的な意見がある。

●委員

前回の南部地域の図書館に関する資料は、次回以降又は図書館協議会で継続検討されるものとなっていくのか。

●事務局

南部地域に関する資料は、リーディング項目の指標だけでは読み取れないものとして、資料の一つとして提出させていただいたものである。

この評価検討委員会での評価やご意見にもとに、地域及びその時代に応じた図書館の資源の再分配を検討し、ベストの状態を維持できるよう努めていきたい。

●委員長

この委員会では、南部地域のあり方についての判断までは行わない。

本日、色々な意見を出していただいたが、何か追加資料などあれば6月9日（火）までに、事務局にご連絡をいただきたい。

●事務局

次回の日程は、平成21年6月11日18時からである。

閉 会

●委員長

それでは以上で第3回評価検討委員会を閉会する。